（別紙３）

公表	令和７年度　児童発達支援　自己評価総括表

○事業所名	おひさまはうす					
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日　～　令和8年2月15日					
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	43 名	（回答者数）	30 名	（回答率）	69.77%
○従業者評価実施期間	令和8年2月9日　～　令和8年2月20日					
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名	（回答率）	100%
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月24日					

○ 分析結果

	事業所の**強み**（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団療育では、小集団ならではの「ていねいな関わり」と「なかま作り」を大切にしていること。	子どもの発信を受け止めて返したり、子どもの思いをくみ取り言葉にしたりすることで、大人への信頼感をもてるように関わっていること。 友だちと遊んで「楽しかった」という経験を積み重ねられるようにしていること。 週５日の療育を行うことで子どもの成長を詳細に感じられること。	来年度は週４日の連続した療育ができるように環境を整えた。
2	集団療育では、「絵本シアター」を通して子どもたちのイメージ力を育てていること。	聴覚や視覚など多方面から子どもたちの心や体に働きかけることで、言葉の土台となるやりとりを楽しめるようになっていくことや子どもたちが真似っこしたり伝えたくなったり人とのやりとりを引き出すこと。	子どもたちの興味関心に合わせながら、絵本シアターの題材を増やしていく。 音楽療法士と連携を深めていく。
3	集団療育では、週１回は園外に出かけて、心と体を育てていること。	公園などのアスレチック遊具で遊んだり、追いかけっこをしたり、友だちが楽しそうに遊んでいる姿を見て「おもしろそう」「やってみたいな」と心が動き楽しく遊びながら心も体も育てていくこと。	集団療育では、利用者５人に対し３人の職員配置で、丁寧な支援を行っている。子どもの様子に合わせて園外に出かけるときは安全に配慮して職員人数を増やしていく。

	事業所の**弱み**（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園などとの交流や地域で他の子どもと交流する機会が少ない。	地域の園とのつながりが薄く、交流のきっかけがつくりにくい。	公園等で出会う園児や地域の子どもたちと交流する機会を大切にしていく。
2	２歳児終了後、月１回のフォローしかない。	園での生活リズムを優先するあまり、ゆるやかな移行ができていなかった。	令和８年４月より週１回の並行通園をし、ゆるやかな移行をしていく。
3			